

水資源・環境学会 2025 年度研究大会
講演要旨

【招待講演】

人口減少に適応する小規模水供給モデルとしての地域自律管理型水道の可能性

講演者：牛島健

(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所
地域研究部 地域システムグループ 研究主幹)

小規模水供給インフラは、ユーザも維持管理の担い手も両方が減少し、その維持管理継続が大きな課題となっている。一般的な水供給インフラの維持管理主体である基礎自治体としては、財政的にも人員的にも維持管理が限界に近い状態である一方、住民の生活を支える最も基本的なインフラである水供給インフラの維持管理を「手放す」という選択肢は基本的にありえない。結果、効果的な解決策が見つからないまま、「だましだまし」運営している実態がある。本発表では、こうした状況に対する解決のヒントを与えるモデルとして、北海道に多く存在する地域自律管理型水道(地域住民が維持管理する水道)の運営実態や基礎自治体等による支援体制について紹介するとともに、今後の現実的な解決策の一つとして、近年注目される地域運営組織との連携(委託)の可能性についても紹介し、めざすべき小規模水道の将来像について考える。

【プロフィール】

(地独)北海道立総合研究機構・北方建築総合研究所・地域研究部・地域システムグループ・研究主幹。東京工業大学大学院総合理工学研究科・社会人博士課程卒。博士(工学)。
定時制高校教諭、ダム水源地環境整備センター研究職員、北海道大学工学院特任助教を経て、2015 年より同機構職員となる。主に地域研究の視点から水・衛生インフラを研究し、近年の主なフィールドは北海道の農山村地域とインドネシアの都市スラム。
主な著書は『講座サニテーション学(第1, 2, 3, 5巻の分担執筆)』(北大出版、2022～2023)、『小規模な水供給システム(分担執筆)』(水道産業新聞社、2024 年)。